ダリア

現在のダリアの品種は、メキシコやグァテマラの高原に自生する６種の原種から改良され、３０，０００を超える品種が作出されてきました。
花の色は、青色を除いて白色から赤色にいたるまで、ほとんどの色彩がそろっていて、美しい覆輪のものもあります。
花弁の形も幅の広いものから糸状のものまであり、一重咲き、半八重咲き、八重咲きと変化し、デコラティブ、カクタス、ポンポンなど様々な花形が作られています。
花の大きさも径３ｃｍの極小輪から、小輪、中輪、大輪、巨大輪まであり、径４０ｃｍを超えるものまであります。
初夏から秋まで、長い期間よく咲き続けて、庭を彩ってくれます。

植え付け
ダリアの球根を選ぶコツは、球根の大小よりも、首がしっかりしていて、芽の部分がついているかどうかということです。
ワックスの塗ってある球根は、芽と反対の根の部分を少し切り、水分を吸収できるようにします。
４月中旬から５月上旬に、日当たりと水はけのよい場所を選びます。日照は、少なくとも午後３時ごろまで日の当たる場所が必要です。
深さ３０ｃｍ、幅３０ｃｍぐらいの植え穴を掘り、球根を埋める前に、支柱を立てておくと、後で球根を傷つける心配がありません。植え穴の下から２０ｃｍぐらいは、土と肥料をよく混ぜて入れ、さらにその上に土だけを５ｃｍぐらい敷いて球根を置き、上にも土をかぶせます。球根は芽の部分を真ん中の支柱に近づけて横に置きます。

施肥
定植地には前もって、堆肥、油カス、鶏ふんなどの有機肥料をすき込んでおきます。
追肥は、窒素分よりもカリ分やリン酸分の多い化成肥料を１㎡あたり、１００ｇ程度を３～４回与えます。最終の追肥は８月下旬までとし、９月に入っての追肥は避けます。

株分け
ダリアの球根は、根との接合部であるクラウンにしか芽をつけないので、分球するときには必ず芽があることを確認して、各球根に１芽つくように、クラウンごと切りわけます。球根だけでは芽が出ません。

病害虫

成長した株が急にしおれる青枯病にかかったら、見つけ次第抜き取り、翌年からは連作をさけます。ウイルス病にかかった株は、抜き取って焼却します。
アブラムシがついたらすぐに殺虫剤を散布し駆除します。夏には赤ダニ、スリップの被害も多いので注意を要します。

掘り上げ

秋に霜がおりて葉が枯れたら、茎を根元で切り、球根を傷めないようにていねいに掘り上げます。５℃以下になると球根は腐敗するので注意します。
貯蔵は、木箱やダンボール箱に、球根とともにおがくずやピートモスを入れて、５℃以上になるように保存します。
南関東や暖地では、掘り上げなくても、土寄せするぐらいで越冬します。

仕立て方

巨大輪や大輪は、１本仕立てにすると大きな花が咲きます。側芽や中央部以外のつぼみは早いうちに摘み取ります。　地上から３節までのわき芽は、２番花のために摘まないで残しておきます。球根から多くの芽が出たときも早めに１本にします。天花が終わったら、地上から４節残して節の上部で切り、切った後は茎の中に水がたまって腐りやすいので、節の上に穴をあけておきます。残った３節の芽は、一方だけ交互に伸ばして、３本仕立てにします。
中、小輪やポンポンは、天花を咲かせた後で、２番花は１株に４～５本立てます。３番花や４番花は１株に８～１０本立てるようにします。

コダチダリア（　コウテイダリア　）

コダチダリアは、中央アメリカのメキシコからコスタリカにかけての熱帯地方の高地に分布し、草丈６ｍに達するダリア属最大の植物です。
園芸品種のダリアには四季咲き性がありますが、コダチダリアは秋咲きで、日本では晩秋から氷点下の気温が続く初冬にかけて開花します。
地植えの場合は、年を追うごとに塊根のクラウン部分が地表面近くに上がってくるので、２～３年ごとの植え直しや株元への客土が必要です。
繁殖は、株分けでも出来ますが、塊根が非常に大きくなるので切り分けることが困難になるため、さし木で殖やした方が簡単に出来ます。さし木の適温は、１５～２０℃で、特別の施設がなくても真夏の高温期、真冬の低温期を避ければいつの時期でも可能です。さし木用の穂木は、木が成熟し固まっていないと腐敗することが多いので、親株の主茎の側枝の中央部分を使います。

川口緑化センター
道の駅「川口・あんぎょう」
ジュリアン 樹里安
〒334-0058　川口市安行領家８４４-２
☎ 048-296-4021 FAX 048-295-0004
http://www.jurian.or.jp